

認知症サポーター

10月20日(水)南風原小学校4年生132人を対象に、認知症サポーターの講習会が行われました。保健福祉課職員の劇とおしながら、認知症の人への接し方、児童ひとりひとりが認知症の人を支える人間のつえになるために必要なことを学びました。「認知症になった人は、記憶をうまくキャッチすることができません。そのため、さっき食べた食事も覚えていないことがあります。認知症の人と接するときは、驚かせない・急がせない・自尊心を傷つけない・否定をしない、この4つを大切にしてください。全てをひとりでやろうとせず、家族や地域の人と協力することで、みんなにとって暮らしやすい優しい町づくりができます。自分ができる範囲でお手伝いすることも高齢者支援です。今日習ったことを大人になっても忘れずに、みなさんが地域のつえとなることを願っています」と保健福祉課担当者はコメントをしてくださいました。



チャーガンじゅうで賞

9月に開催された「チャーガンじゅう元気プロジェクト」の当選者が発表され、1等のみなさまへ賞状と賞品の授与を行いました。今回は258人の参加があり、1等のみなさまには、お米券1万円分が町長より手渡されました。授与した1人の松島さんは「2年前に癌を患い、胃を全て摘出しました。身体づくりのためにも、医者から運動を勧められていたので、チャーガンじゅう元気プロジェクトを使って毎日楽しく運動に取り組むことができました。これからも健康を大切に運動を続けていきたいです」町長は「沢山の方に参加いただき感謝しております。町民のみなさまの健康づくりのために、今後も続けていきたい企画だと感じています。皆さまには、チャーガンじゅう目指して、これからも運動を続けて欲しいです」とコメントをしてくださいました。



左から 副町長、仲井間さん代理、新垣さん、町長、松島さん、神山さん、知念部長

スーパーウチナンチュ



演奏をするアルベルト城間さん



南風原中学校3年生と一緒に

10月25日(月)世界で活躍するウチナンチュのアルベルト城間さんが、南風原中学校にて講演と演奏を行ってくださいました。これは、来年開催される「第7回 世界のウチナンチュ大会」の事前学習として行われ、アルベルト城間さんのペルーでの生活や、沖縄に来た経緯などを教えてくださいました。

祖父母が沖縄出身で、アルベルト城間さんは日系3世。来日当時は、演歌歌手を夢見て修行していたが、夢が叶わなかったため、自分のルーツでもある沖縄へ移り住むことを決意。その後は、琉球古典音楽などを学び、ダイヤモンドとしてデビューを果たしたそうです。「沖縄に着いた後は、津嘉山に住みながら沢山のことを体験させてもらいました。津嘉山公民館で綱づくりをしたり、お盆に三線を弾いて歩いたり、とても楽しかったです。僕は、沖縄のちゃんぶる文化が素敵だなと思っています。これは自分の文化も、相手の文化も大切にすることで、沖縄だけの広い心です。僕にとって沖縄は最も特別な場所で、この文化をいつまでも大切にできる沖縄であって欲しいと願っています。そのためには、沖縄のみんなで本当の平和について考えていく必要があると思います。戦争がないことが平和ではありません。本当の平和は近くから始まります。これからもみんなで沖縄の良いところを探していきましょう」とコメントをしてくださいました。

国内初 ハブ皮でエコレザー認定

yu-i FACTORY 代表 幸地賢尚さんは、人と環境に優しい皮製品として日本エコレザー基準を取得しました。ハブを含むヘビ皮での認定は国内初の快挙となっています。



左から2番目 幸地さん

地域の名士 指導農業士認定

富名腰泰裕さんが指導農業士として県知事より認定を受けました。農業士は、地域で優れた農業経営を行いながら、新規就農者や青年農業者の育成・指導に取り組む、地域農業の振興に関する活動を行っています。

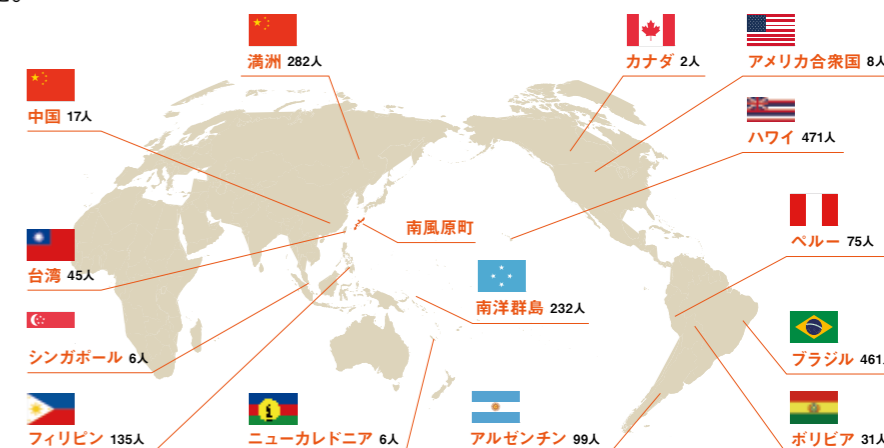


真ん中 富名腰さん

南風原町から世界へ
羽ばたいた移民者は…

約1870人

※国旗は現在のものを使用



イッパチと山戸(やまと)

津嘉山に生まれた2人は、イッパチ(儀保浦太)当時13歳と金城山戸当時14歳は出稼ぎのためにブラジルへ渡りました。ブラジルでは、耕作地でヤギの飼育や水くみを仕事としていましたが、報酬の少ないことに耐えかねて3か月後、2人は仕事場から逃げだし街で仕事を探すことにしました。サンパウロのアウローラ街で、右と左の道に分かれ、2人はそれぞれ仕事を探し、イッパチは競馬場の門番の仕事、山戸は歯科医の奉公人として働くこととなりました。その後、イッパチは賭博場の経営者、山戸は歯科外科医の免許を取得し、ブラジルで日本人初の歯科医師となりました。



2人の話は、新垣正宏(まさひろ)さんによる紙芝居で見ることができます。

第7回 世界のウチナンチュ大会

2022年10月30日～11月3日

移民をきっかけに、沢山のウチナンチュが世界中で生活しています。世界に広がるウチナンチュと県民が交流を深め、国際的なネットワークを確立することを目的に、1990年に「世界のウチナンチュ大会」が開催されました。大会での交流により、沖縄を訪れた移民者の子や孫が自分のルーツを探ったり、親戚と対面するなどウチナンチュの輪が広がっています。

南風原移民の碑

1899年、南風原町から最初の移民がハワイへ渡った後、ペルー、ブラジル、アルゼンチンなど14カ国へ移民の輪が広がりました。文化センター横には、移民の歴史を広く後世に伝えることを目的に、2009年に移民の碑が設立され、海外移住者子弟研修による交流事業や、中学校の総合学習を通して歴史の継承を行っています。

かすりの女王 任期延長

コロナ禍により琉球かすりの女王コンテストの開催が難しいことから、第32代琉球かすりの女王の任期が令和4年11月30日まで延期されることが決定しました。



左から 諸見里紗織さん、島尻奈美さん、具志堅萌子さん

2人が南風原町観光大使に

10月25日、南風原町観光協会公式YouTubeチャンネル「兼城十字路チャンネル」を手がける、仲座健太さん、ただのあきのりさんが南風原町観光大使に任命されました。



左から ただのあきのりさん、はえるん、仲座さん

寄付・寄贈
ありがとうございました

● 南風原町社会福祉協議会へ

新垣正雄様(字与那覇)より…1万円 大城静雄様(字兼城)より…10万円
故母 大城敏様の香典返しとして